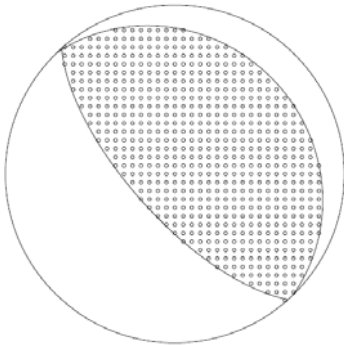


8月29日 ローヤリティー諸島南東方の地震 (W-phase を用いた発震機構解析)

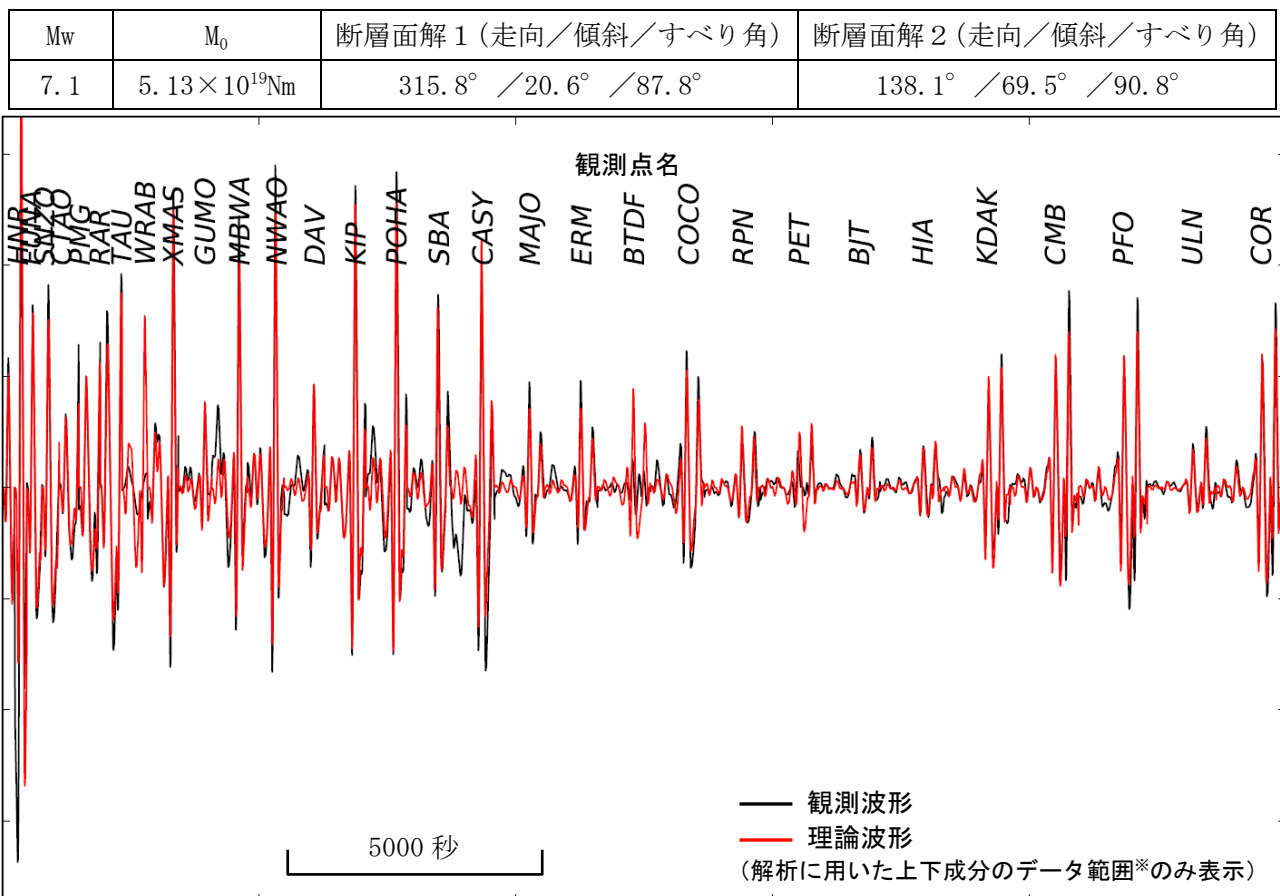
W-phase による解



2018年8月29日12時51分（日本時間）にローヤリティー諸島南東方で発生した地震について W-phase を用いた発震機構解析を行った。発震機構、 M_w とも、他機関の解析結果とほぼ同様であり、 M_w は 7.1 であった。なお、W-phase の解析で求めた震源は $S22.4^\circ$ 、 $E170.1^\circ$ 、深さ 26km となった。

W-phase の解析では、震央距離 $10^\circ \sim 90^\circ$ までの 30 観測点の上下成分、16 観測点の水平成分を用い、100~500 秒のフィルターを使用した。

注）W-phase とは P 波から S 波付近までの長周期の実体波を指す。



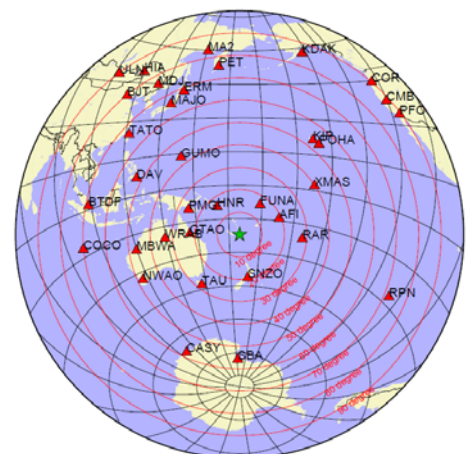
※解析に用いたデータの範囲は 15 秒×震央距離(度)としており、各々の観測点の解析区間のみを繋げた波形を表示している。

(W-phase に関する参考文献)

Kanamori, H and L. Rivera, 2008, Geophys. J. Int., **175**, 222-238.

解析データには、米国大学間地震学研究連合（IRIS）のデータ管理センター（DMC）より取得した広帯域地震波形記録を使用した。

また、解析には金森博士及び Rivera 博士に頂いたプログラムを使用した。記して感謝する。



解析に使用した観測点配置

気象庁作成